

提案者（国家戦略特区制度を活用した規制・制度改革提案）

十勝総合振興局管内19市町村

（帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町）

十勝が目指す姿（構想の概要）

十勝が有するポテンシャルの高さ

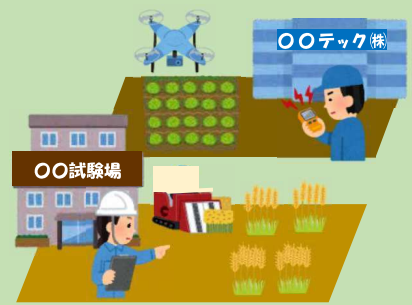
- 国は、社会課題の解決や包摂的な成長を実現するため、**AI利活用の加速的推進**を図るとしており、また、2030年までに食料自給率を38%から45%への引き上げを目指す中、生産性向上やコスト低減に向けて**スマート農業技術の導入**などを進めることとしています。
- 大規模専業経営が多い北海道において、十勝は、開拓以降、**新しい農業技術を積極的に取り入れ**、食料自給率1,295%を誇る今日の大規模畑作酪農地域の地位を確立してきました。また、帯広畜産大学や農業試験場など**農業と食の研究機関や農業機械メーカーが集積**するほか、道央地域と道東地域をつなぐ**交通の要衝**にも位置づけられており、**AI農業の開発・実証、実装の先進地となるポテンシャルを有しています。**

「AI農業特区」を通じて目指す姿

- この、歴史的、地理的な十勝のポテンシャルを活かし、「AI農業特区」を活用しながら、工学系研究機関やテック企業を呼び込み**AI農業研究の拠点化**を図るとともに、**AI農業技術の開発・実証、実装環境の整備**を図り、それらのスピードを加速します。
- こうした取組を通じて、人手不足やコスト高などの課題を解決し、将来にわたり食料供給地域としての役割を果たしつつ、AI農業を全国に普及していく**AI農業先進地を実現**します。

目指す姿

AI農業研究の拠点化



AI農業の開発・実証、実装環境の整備



AI農業先進地の実現

十勝AI農業特区の提案項目一覧（13項目）

特区における提案項目

ロボットトラクタの公道走行の促進

①作業機を装着・けん引するロボトラの公道走行のルール化	規制緩和等（新たな仕組みづくり）
②ロボトラの公道走行実証試験を行う際の手続きの簡素化	規制緩和
③ロボトラと有人トラックの隊列走行の円滑な実現	規制緩和

ドローンの使用促進

④手続きの省略	規制緩和
⑤飛行可能な場所の追加	規制緩和
⑥農薬使用基準の弾力的な運用	規制緩和

Wi-Fi環境の充実

⑦送信出力上限の引き上げ・実証期間の延長	規制緩和
⑧Wi-Fi HaLowのDuty比制限の撤廃	規制緩和

⑨テック企業等の立地促進	規制緩和
⑩ロボット農業機械の早期開発、実装の促進	規制緩和等（新たな仕組みづくり）
⑪公的研究機関の機能充実	体制強化

その他、国への提案

⑫農業関連施設・設備の導入支援	その他（税制優遇）
⑬ロボット農業機械の導入に係る補助事業の創設	その他（補助事業創設）

十勝 AI 農業特区の指定について

9 月 10 日に開催された国家戦略特別区域諮問会議において、「AI 農業特区」として十勝管内 19 市町村を国家戦略特別区域に指定する方針が了承された。今後、政令の公布・施行を経て、正式に指定される見込み。

※国家戦略特別区域＝大胆な規制・制度改革によって「世界で一番ビジネスがしやすい環境」を創出することを目的に創設された制度。自治体や事業者が創意工夫を生かした取り組みを行う上で障害となっている規制や制度について、特例措置の整備をはじめとする改革を行うもの。

【特区の概要】

19 市町村の連携により、AI 農業研究の拠点化と、AI 農業技術の開発・実証及び実装環境の整備を一体的に進め、「食料基地」の役割を果たしつつ、AI 農業を全国に普及する「AI 農業先進地」を目指す。

【十勝の概況】

農業産出額 3,262 億円／食料自給率 1,295%／ロボットトラクタ導入 46 台

1 経営体当たり経営耕地面積 38.5ha（2035 年見込 48.3ha）

【これまでの経過（令和 8 年）】

- 3 月 27 日 — 十勝 19 市町村連名で正式提案
- 5 月 27 日 — 国家戦略特別区域会議 合同会議
- 5 月 28 日 — 国家戦略特区等ワーキンググループヒアリング
- 7 月 9 日 — 国家戦略特別区域諮問会議にて、11 項目の提案に係る対応方針をとりまとめ
高市総理から黄川田大臣へ特区創設の検討加速を指示
- 7 月 30 日 — 黄川田大臣へ「AI 農業特区」創設に向けた要請
- 7 月 31 日 — 十勝 AI 農業協議会 設立
(19 市町村で構成。特区関連事業を推進する実行組織)
- 8 月 6 日 — 国家戦略特区等ワーキンググループヒアリング
- 8 月 31 日 — 内閣府調査・実証事業採択
「ロボットトラクタの公道自動走行の社会実装に向けた調査」
- 9 月 10 日 — 国家戦略特別区域諮問会議にて、「AI 農業特区」として十勝 19 市町村を
国家戦略特別区域に指定する方針が了承
- 9 月 25 日 — 国家戦略特別区域を定める政令の一部を改正する政令が閣議決定
- 9 月 30 日 — 国家戦略特別区域を定める政令の一部を改正する政令が公布

【今後の取組】

- 11 月 14 日 — 十勝 AI 農業特区シンポジウム
(AI 農業の国内外の先進事例の紹介、パネルディスカッション)

AI農業の先進地を目指して ～日本の農業の未来を十勝から創る～

十勝の農業者や民間事業者、教育・研究機関、金融機関等の皆さまに向けて、
AI農業特区や国内外の先進事例、十勝の実践事例を紹介し、
十勝AI農業特区を最大限に活用いただくことを目的にシンポジウムを開催します。

program

開会挨拶・来賓挨拶 14:00～14:15

話題提供 14:15～14:40

- ①「十勝AI農業特区の指定の意義」（小山 和久 内閣府地方創生推進事務局 審議官）
- ②「十勝AI農業特区の概要」（鷲北 博敬 帯広市農政部農政室農政課 特区推進主幹）

基調講演 14:40～15:20

パネルディスカッション 15:25～16:00



経済産業省
AI産業戦略室長 渡辺 琢也 氏
「世界・国内のAI及び
フィジカルAIを巡る情勢」



北海道大学
副学長・総括理事 野口 伸 氏
「AI農業をめぐる情勢」



農林水産省
農林水産技術会議事務局研究調整官
宮本 亮 氏
「農研機構芽室拠点の機能強化」

テーマ「十勝AI農業特区に期待すること」

コーディネーター

- 鈴木 章代 氏 十勝総合振興局 局長

パネリスト

- 佐藤 禎稔 氏 帯広畜産大学 名誉教授
- 小林 晋也 氏 (株)ファームノート 代表取締役
- 背戸田 達也 氏 十勝地区農協青年部協議会 会長
- 山根 康弘 氏 JA帯広かわにし 上席参事

アドバイザー

- 野口 伸 氏 北海道大学 副学長・総括理事

交流会（参加費無料） 16:00～17:00（出入り自由）

農業者、民間企業、大学・研究機関、金融機関の皆様と情報交換できます。
※企業ブース出展、各企業によるピッチもあります

日時 **11.14** (土)

場所 **とち館**

帯広市西7条南6丁目2

主催：十勝AI農業協議会
（十勝19市町村）
後援：北海道

お問い合わせ：帯広市農政部農政課
TEL :0155-59-2323
MAIL:agri_center1@city.obihiko.hokkaido.jp

▶申込はこちら

申込期限：**10月16日**

